夕刊
磐城新聞
九月二十六日發行
（日曜祭日翌日休刊）

天氣豫報 小名濱測候所觀測
今晚 北の風晴一時曇
明日 北から南の風一時曇

筆のさが

山本生

〔二〕

これは直ちに友人の論客小川布淑によつて『雅俗辨』を翻い、發展して伴蒿蹊の『續雅俗辨』佐々木眞足の『東さとし』春海の『論雅俗辨書』昇道の『雅俗再辨』などとなつていつまでも、景樹の歿後までもその論爭はむしかへされたけれども、ともかく當時、大抨擊をうけたのは景樹であつた。

○

景樹はこの場合二つの立場を採つた。その一つとして、あくまでこの兩大家に否一般歌壇に對して抗爭をつゞけて行つた。いきゝかもゆるぎを見せてはならなかつたのである。それは自己が社會に生きる道であつたのである。そのころ景樹の人に告げらく

『兎角世上誹謗の沙汰のみうるさき限に御座候、其の後も處々より愚歌の評書出で、近くは上田餘齋論の書も出て候て一寸拔見仕候。歌の狂なるものとか申候て大にあばきたる書に御座候。勿論淺識の話抱腹、千蔭等の鼠類に相見え申候』

といふ鼻息である。だから世人は

『香川景樹は實に大天狗に御座候。世の褒そしりによりて歌によまいすと申つつたちをられ候』

と、口を極めてののしつたのである。

實に口を極めてののしつたけれどもまた景樹らはあくまでたゝかつた。『今都方の歌は[illegible]受けて防ぐなう、隨分に西國方をかきたまふな』と、盟友木下幸文にたよりすれば、幸文もまた『幸、我に力合はすべき人も侍れば程無く西國をば切靡け候べし。などたゞ都の鎭こそ大事 候へ』と、應援がくるといつた有樣だつた。

從來の文學史家はこれらの事實を採り上げて、景樹が如何にも不遜の徒であり、傲岸の男であるが如く說いて居るのはいかにもなげかはしい。

さうしなければ生きられない。さうしなければ一生の希望を中途で挫折せねばならない。男の意氣地ではないか。自己の信ずる道に、強く生きたものが、美しくこそあれ、貶せられる理由はあるまい。

しかし世の文學史家は景樹の今一回の生き方を沒却してゐるのか。知らないのか。

9月27日 △坂上田村麿蝦夷を平定す（延暦二〇）△英國に於て始めて汽車を運轉す（一八二五）△希臘コンスタンチン王退位（大正一一）

九月集〔四〕

江連不二生

○ひたむきに汗流れ出づる山坂にほのぼのと朝日光さしけり

○見[illegible]ふる[illegible]し飛機のかゞやき現れてひろごらぬ

○郭公の聲かそけくなりこの原に幾月[illegible]ゆ[illegible]なるかも

○わが除ノ突襲近し夏草にまぎれもあらず假想敵見ゆ

綠樹陰彈琴圖

詠霽 小寺鐵翠

竹樹新陰夏日長
橫琴入坐岡川莊
行雲流水眼前見
本是風塵以外鄉

○

金錢の事を決して輕忽に處辨する勿れ金錢は品行なり リツトン

講談 振袖横町(ふりそでよこちやう)

（38） 須藤鐘一 荻原萬象畫

兄弟（四）

『そのおたかぢやがのう』

と云つて平藏はちよつと下を向いて、云はうか云ふまいかと思ひ惑つたやうであつたが

『實は去る屋敷に奉公に出したのぢや……』

『去るお屋敷に御奉公……?』

『うむ。其方も知つてゐるであらうが、わしが思ふてりなどして物は悉り果してしまひ、如何樣ともいたしかたがなくなつてしまつたのぢや。——その折、信濃屋五兵衞と申す者が、去る屋敷より奉公口がありますので如何でせうかと、云はれたので、以前ならば斷じて左樣なことは致させぬ筈はないのぢやが、背に腹は替へられず、止むを得ず、奉公に差出してしまつたのぢや……』

『左樣でございましたか？背に腹は替へられぬとは申しますがそれでは兄上もさぞ、お淋しいことでございませう。』

『[illegible]樣[illegible]』

と、何[illegible]わつてしもうて物淋しうてのう——。』

子ぼんのうの兄上のこさこそとお察し仕る……して、おたかの奉公に上りました先は？』

『わしはまだ先方の屋敷はいづれであるか、しかとは存せぬのぢやが……』

『娘の奉公に行きました先の屋敷の名を存せぬとは——？』

『これには深い事情があるのでの……』

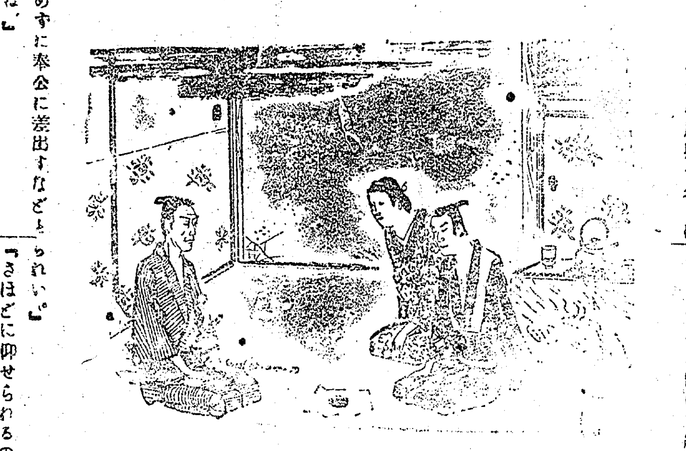
と、これまでのいきさつのあらましを順序を追ふて話してしまつた。

『とは申せ、餘りと云へば迂濶千萬と心得ます、が——。先方の屋敷、名も確めずに奉公に差出すなどとは』

『子ぼんのうのお兄さまにも似合はないことをなさいましたのでございますね。』

おせいも傍から、非難するやうに言つた。

『面目もない次第ぢやが、そう叱らんで呉れ、信濃屋五兵衞と申す口入稼業だけの話なら奉公には差し出さぬのであつたが、屋敷からも使者が參つた。その者は信頼出來さうに思はれたので、その者の言葉を信じ、奉公に差出して、遲かれ早かれ奉公先は分るわ——その際はまだ知らせるでのう——』



『左樣でございますか、それにつけても、お一人では何かと御不自由と存じまするが——』

『なに、金策に胸を痛めるよりはましなこと、察することはない——時に、僅かではあるが、其方も金には困つて居らうと存じ、持參致した。これだけでも納めて置いて呉れ——』

紙の上に五枚の小判を並べた。

さすがの團藏もこれにはちと手を出し兼ねた。

自分も五兵衞と共に策謀したのではないか？

『いやお志は辱なう存じまするが、さうした金を頂くのも何んとやら、御心配には及び申しませぬ——。』

『借金が多かつたので、ただおさが曲げて納めの られい』

『さほどに仰せられるのなら、心苦しうございますが頂戴仕ります。おせい、兄上から小遣ひを頂戴致したお禮を申せ。』

『まあ、左樣でございますか、お兄樣、只今はた小遣ひを下さいまして有難う存じます』

『其方にも別に差し上げたいのぢやが、今聞く通りの金。仇おろそかには使用致されぬ。それで勘辨して貰ひ度い。』

と、云つて平藏は、それから暫らく雜談を交はして、辭し去つたのである。

科外生徒募集

一、邦文タイプライター科
◎時代の尖端を行く昭和婦人の職業
入學は每月 隨時
卒業期間 四ケ月（高女卒程度） 十ケ月（小高卒程度）
◎卒業者の就職紹介は各方面と連絡を有し斡旋致します

一、洋裁科
入學は每月 隨時
卒業期間 本科一ケ年 速成科六ケ月

文部大臣認可 平陽女學校（平市 電話四四五番）

◎內科、小兒科 院長 前田清美
◎外科（外科一般、內臟外科）
◎花柳病科 副院長 野村武一
◎X光線科
◎物療科（新設）
（手術室入院室完備）
前田醫院 植田町本町 電話一二四番

銘木（床ノ間材）
天井板、ベニヤ板買ふなら確かに御期待に添ふ良品廉價の
織田材木商店へ
福島縣平市 電話平四六〇番
勉強せる勉強振りを、ぜひ一度お試しを乞ふ
營業種目 建築木材一式 銘木・ベニヤ板 秋田產杉四分板 建具材・便利瓦
◎小店員募集 年齡十五歲ヨリ廿歲迄

おでん
お酒のあとに おけさめし
おでん 茶めし 酒の家
味鄉
平市三田小路（三丁目裏）

新車のお知らせ
斷然!!! 乘心地良い!!!
最新型フォード
入車いたしました。
是非! 御試乘の程を!
市內四丁目
スゞキタクシー 電二一七番

◇住宅地分讓◇

都心に近き保健境
平第三小學校東北方約二萬坪
金より物の時代
「安全の土地」

支那事變前では、投資家の投資物も種々雜多で、その向き向きに依つて、投資せられたものもありますが、事變の進行と共に各方面に於ける統制の強化は、全く自由に各方面への投資が抑制せらるゝことゝなりました。その間に在つて殘された安全堅實にして、而かも至極有利なる投資としては、先づ第一に土地を擧げねばなりません。殊に最近に於ける跛行的景氣に依るインフレ傾向は、全國的土地投資熱が第一位と云つても過言ではないのであります。蓋し經濟界に於ける統制は、物價の抑制を招來してゐますが、獨り土地の價格には統制がなく、而かも遊資家の放出先に困つた投資が、期せずして土地に向つて來るのは、當然の歸結とも云ふべきであり、更に一面に於いて、事變終結に想を致すとき戰勝インフレの幕が切つて落さるゝことゝなれば、產業界の殷盛と共に土地價の昂騰は期して待つべきものであると存せられます 從つて古來土地に投資した者には、殆んど全部が數十割の利益こそ見れ、決して損失はないと云はれてゐるのも、宜なる哉と思はれるのであります。

大小各口の御相談に應ず
御希望の方は市內田町一九蓮沼方（電話七八七番）へ御問合せ下さい

磐城の御みやげ品
名物 靈峰(みやま)羊かん（名產柿煉）
姉妹品
磐城耶馬溪……美山羊羹
同 七濱……のり羊羹
同 豐間……辨天羊羹
◎各種 一本 十錢
製造發賣元 小川郷驛前 平屋賣店

日本石油株式會社特約店
ライジングサン石油株式會社石油特約店
株式會社 關彰商店平支店
福島縣平市一丁目（電話六十一番）
本店 茨城縣下館町 電話五五、三三九番
支店 茨城縣土浦町田宿 電話六五三番
茨城縣久慈町 電話一三七番
茨城縣多賀郡關本驛前 電話大津一四七番
福島縣四倉驛前 電話平潟五四番
福島縣小名濱町 電話四八番
油槽所（常磐線泉驛前
海岸給油所（大津港、平潟港、江名港
ガソリン給油所（土浦町新國道日本石油給油所 電話八二四番）

お醬油は……ヤマフル
味噌 醬油 たひら正宗 鰹節 食品料
塩屋 山崎合名會社
福島縣平市 電話（營業部一〇番 本店二七番）
明治生命磐城代理店 山崎與三郎

御知らせ
和洋結髮、パーマネント
御婚禮用 貸衣裳 貸かつら
御用命の程を御願ひ致します
平市新田町
手塚美容室

最後の運命を秘めて運び込まれた玉手箱

緊張裡に開票は進む

郡部十候補が前後二旬に亘る惡戰苦鬪の收穫は果してどうあらうか？當日の好天氣と棄權防止の宣傳が利いて投票率の良好を想像され乍ら郡下町村役場三十二の選擧場は息づまる緊張裡に刻々と投票を呑んで、秋の日の暮れ早く、火點し頃を過ぎ午後六時、茲に各候補の運命は決まつて、締切つ、有權者の總意を克明に封じ上げた夫々嚴重な護衛附きで植田、平の兩管轄開票所へ送り込まれた今二十六日は午前八時から開票開始、順次判明する各候補の得票に其の都度颯とばかり明暗風景を展開し乍ら最後へ！と時は移つてゐる

・・・・・入れる人なし

無効投票の色々

平開票所の無効投票のうちには例によつて肅選を汚す出鱈目投票が少くない、その主なるものを見ると楠正成、鶴見祐輔、どちらにも入れる人なし、野崎正一等の白票が二枚あつたと

棄權一割四分五厘

郡部投票成績不良

郡部有權者三萬七千八百八十二名中、死亡轉出等の欠格二千百九十七名を除いた投票當日現在有權者左記町村別三萬五千六百八十六名でうち五千百七十一の棄權は實に一割四分五厘に上つてゐる

町村	投票數	棄權
飯野	五二六	九六
夏井	四六六	六四
高久	四三五	七三
豐間	五三四	二七九
江名	八四五	二九八
鹿島	三三六	三七
小名濱	一、八九八	四二九
玉川	四三八	三五
磐崎	九四五	二〇七
湯本	二、六三四	二七三
植田	一、〇六九	九六
山田	五四三	五六
錦	八七二	一一一
勿來	一、四一七	一六三
上遠野	八一九	七五
入遠野	七〇二	一一七
川部	五八一	一七五
田人	七九一	二三八
四倉	一、一五九	二二七
內郷	四、一八六	六八二
好間	一、九九五	二三三
赤井	一、〇八五	一三七
永戸	六二五	一四三
三阪	二四九	二四
澤渡	四一六	一〇一
神谷	五九五	六八
泉	六八九	八二
渡邊	三九九	二一
大浦	七四三	六六
大野	六六八	七八
草野	七八一	九〇
川前	三六一	一六二
上小川	三四〇	七三
下小川	三七二	六二

開票順

(平開票區)飯野、鹿島、高久、神谷、好間、草野、豐間、上下小川、大浦、四倉、夏井、赤井、永戸、箕輪、川前、大野、內郷、三阪澤渡

(植田開票區)植田、渡邊、錦、玉川、勿來、川部、山田、上遠野、泉、入遠野、小名濱、磐崎、江名、湯本、田人外三村

殊勳一番乘 江名春陽丸

六萬尾を初水揚

秋刀魚の第一船が豫定より一日早く二十四日朝六時鹽釜に入港した、見事一番乘り殊勳の船は江名町の春陽丸で六萬尾を初水揚した、相場は一貫(四百尾)三十七圓八十七錢で昨年より十圓五十錢高く直ちに東京市場へ出荷された

秋刀魚漁船から快報

濟勝丸先づ三萬圓

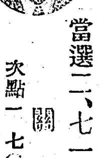
二十日から解禁の秋刀魚漁に出て行つた石城片浦の漁船は何れも豐漁の旨二十五日小名濱町の濟勝丸から入電あつた、同船は北海道沖で秋刀魚群に遭ひ約三萬圓の漁獲を擧げ他の漁船も皆相當の漁獲で日ならずして各濱は秋刀魚景氣に沸くものと期待されるが釘不足で出荷出來ず從つて値段が崩落するではないかとも懸念されてゐる

興奮に秋夜は更くる

市部の開票に逆捲く人の怒濤

關內氏ゴールイン

市部選擧區獨立最初の開票は投票即日の昨二十五日午後七時から旋風的興奮の裡に選擧會場たる市會議事堂に於て開始された。冷涼水の如き秋宵を電燈明々、會場附近は全く人を以て埋まり、顏面神經を蒼白に緊張させて投票の區分整理其の他慌ただしい清算直前を凝視する選擧大衆の不氣味な沈默と、事を好むファンの喧騷と、混然雜然カクテルされた開票の夜は刻々と移つて磐城址畔虫聲唧々たる午後九時過ぎ苦鬪二旬の審判は次の如く冷嚴に下つた



當選 二、七一三票 關內正一

次點 一、七〇二票 野崎滿藏

僅か乍ら棄權減

宣傳が微かに反映

市の有權者四千六百九十二名中投票數四千四百三十七票で棄權二百五十五、無效二三、有效投票數四千四百十四票で、前回(平窪合併以前)の有權者數四千三百二十二名に對する棄權二百九十三この棄權率五分八厘五四に比し今回は五分四厘三て『棄てるな一票』の宣傳強調が微か乍ら反映してゐる

飛耳張目

街に氾濫する當落ばなし

各所の開票日點景

今日も快晴、澄み切つた青そらには金風が颯爽として絶好の開票日和である。此日各所の選擧大衆は豫て用意の得票記入票を前に緊張した面地で第一報の入るのを待つ。時は移つて甲村乙と町の蓋あけが電話と傳令に次々と傳へられて其の都度嵐のザワめきが氾濫する裡に刻々骰子の動きを運んで來る悦しさ、斯くして今夜愈よ最後の當落が決せらる

磐中排球成績

昨報、二十四日福師コートで擧行された明治神宮体育大會縣排球部本縣豫選(男子)に優勝した磐中軍の成績左の如し

◇籠球

一回戰 磐中 39―37 福商

準決勝 福師 60 (41―11、19―11) 22 磐中

◇排球

第一回 磐中 2―1 福中

準決勝 磐中 2 (21―19、19―21、21―16) 1 福師

決勝戰 磐中 2 (21―12、21―14) 1 郡商

平市慶弔錄

○婚姻 東京市葛飾區本田立石町二八〇佐藤康一氏(三二)紺屋町三八渡邊雪江さん(二三)、東京市品川區大井倉田町三三三八高山錦鶴氏(四二)研町九高野シンさん(三五)、內郷村綴高坂一八阿部政男氏(二七)四丁目一七鈴木竹子さん(二三)

玉屋眼鏡店

陣中を聽く

(472)

慰問途上有意義なお話を耳にして感激

市内田町出身 坂本昌藏君(信通)

殘暑嚴しき折柄愈よ御健勝の御事と遙察申上げ候。過日中支の猛暑を突いて時益々重大し政界愈よ進展多端な折我々出征將兵に對し御慰問の上色々と有意義なる熱話を承り只々感謝感激さるゝのみにて厚く御禮申上げ候 銃後の何時も乍らの熱意の溢るゝ御後援を[illegible]一入に意を強う致し居り候 小生其後中支の最重要點とも云ふべき心臟部の一角に益々横溢せる鬪志を以て日本殘暑と戰ひつゝ精勵致し居り候御他家乍ら御放念下され度候。遠路無事御歸平を祈りつゝ先は御禮迄申上げ候、末筆乍ら遙かに御健勝を祈り上げ候

達成未だし

一丁目出身 小川淳君

日にまし暑さ嚴しき折柄貴家御一同樣には御變り御座いませんかお伺ひ申上げます。愚生儀お陰樣にて待望の地點に上陸早や〇ヶ月を經、只今では大陸の氣候風土にも馴れ至極頑健にて軍務に服して居ります。

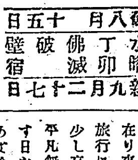
目下當地に在りますが電燈水道が復舊し鐵道やバスの新線延長も各地に開通して大へん便利になり支那街も皇軍警備の下に安心して暮し良き日を過しし復興振りであります。

氣候なども內地よりも少し暑い位で殆ど變りありません。初めて見る大陸は何處を見ても一大平原で揚子江の大きな事には驚きました。外國汽船が自由に往來して居ります。皇軍は連戰連勝未曾有の戰果を擧げて居りますが大目的は未だ達成されず東亞新秩序建設に現地軍官民一致協力最大の努力を拂つて居ります。長期戰に相應して一層緊張して御奉公を誓ひ以て君國に報いんと致して居ります。

茲に平素の御無沙汰を謝し近況御知らせ申上げます。末筆乍ら貴下御一同樣の御健康を遙かにお祈り申上げます。

中間得票 (後二時現在)

候補者	得票
遠沼	一、三七〇
荻原	四九八
大井川	九二
小野	八三〇
草野	一、〇七五
赤津	二、一一五
坂本	一、一一八
齊藤	四七三
木村	八五一
蛭田	三三四



舊八月十五日　新九月二十七日　水曜　丁卯　佛滅　破　壁宿

▲一白 步調正しければ思ふ彼岸に達し得らるべし▲二黑 口舌は勿論のこと取引にも爭なき樣すべし▲三碧 人を責めず我を張らず心大なれば自ら無事▲四綠 一利を得て第二の利を歩みる事なく退くべし▲五黄 自力本意を以て歩らねどもあせらず進むべし▲六白 在り來りの業には支障なきも移轉旅行は凶▲七赤 位高ふして疎は少し高ぶれば更に損を招く▲八白 平凡無爲の內に自から芽を吹き出す日なし▲九紫 飲食さへつゝしめば餘事は大てい都合好く行くべし

二十七日 【小名濱測候所觀測】

滿潮 前 一、二五 後 一、四五

干潮 前 七、一〇 後 七、五五

病室・手術室完備
產科 婦人科
醫學博士 五十嵐雄一
(物理療法科併置) (入院隨時)
平市新川町(電話三六九番)

縣會議員選擧各候補者得票

候補者(イロ

町村名	有權者數	野崎	關內	遠沼	荻原	大井川	小野	草野	赤津	坂本	齊藤	木村	蛭田
平	五、〇四七	一、七〇二	二、七一三										
飯野	六四八			八四	二六	—	三	二〇	二	—	九	二五	—
鹿島	三八三			二	四九	七	一九二	四	四	二	四四	六	二
江名	一、二七八												
豐間	八一八												
高久	五一九			一七六	八二	—	七六	一	一	一六	三	五四	—
夏井	五四四												
神谷	七〇三			一三九	一〇五	二	七	三	六	三	一〇	二七六	—
草野	九〇三												
大浦	八三八												
四倉	一、四四四												
大野	七七九												
赤井	一、二八五												
上下小川	八八七			二四一	三	—	一三	三八	七	三	—	六〇	—
川前	五三九												
三阪澤渡	八〇六												
永戸箕輪	七九六												
好間	二、四四三			六五〇	一一三	六一	四九	六六	四〇	三六	一七八	一七三	七
內郷	五、二九三												
湯本	三、一四四												
磐崎	一、二二六												
上遠野	九四二												
入遠野	八三四												
田人外三村	一、〇四六												
川部	八〇三												
勿來	一、七三〇			二	八	一	三	二	一、一二九	一四二	四二	八	五二
錦	一、一〇一			七	二	—	六	一	四九六	三二	二	三	二九
山田	六一三												
植田	一、二〇四			四	一〇	二	九	一	四〇三	五六	一〇	七	九七
渡邊	四三六			三	—	一〇	一三	—	四五	一三八	二四	—	三八
泉	八〇七												
玉川	四九三			三五	三	九	二〇三	一	一	三	一三	九	二
小名濱	二、四八三												
計	四二、八〇三	—											